

釜石祥雲支援学校

研究テーマ

「主体的・対話的で深い学び」を実現する教材
を視点とした授業づくり

(2年研究1年次)

1 全体研究

(1) 主題設定と目的

R5年度までの研究で「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善をテーマに、単元の見直しや教科との関連、年間指導計画の新様式などについて研究を進めてきた。今年度は教材を視点としてさらに実践について深め、より具体的に授業改善について取り組みたい。

(2) 研究の内容及び方法

①教材データベースの作成

校内にある教材をデータベース化し、日々の授業の教材研究の効率化と授業の向上を目指した。

②教材リンク集の作成

授業での活用や教材の作成や開発などに役立てるように、インターネットで閲覧できる教材のリンク集を作成した。

③授業改善

教材を柱に授業計画シートを作成し、教材の作成と活用をグループ毎に検討した。また今年度は小学部と自立活動グループの全校授業研究会を行い、授業や教材についての検討を行った。

(3) 今年度のまとめと課題

今年度は教材の活用や授業づくりのベース作りを中心に行った。次年度は日々の授業実践、授業研究会などを通して、児童生徒の実態に合わせた教材を活用し、個々の力を伸ばせるような実践について深めていきたい。

2 各グループ研究

(1) 小学部グループ

小学部5年生を事例にし、児童の実態の把握、課題の捉え方などについて全体で検討を行った。またそれぞれが、教材案を持ち寄ってよりよい授業づくりについて協議した。

(2) 中学部グループ

教材に関する困りごとについて検討し、教材を作成して生徒への指導支援に活用した。また、教

材の使用にあたって授業実践を行い、学部職員間で教材の活用について研修した。

(3) 高等部グループ

iPadを活用した授業実践について、高等部3年生の活用事例をもとにグループ協議を行った。授業実践を見て、iPadを活用する際の成果と課題について話し合い、活用方法を検討することができた。

(4) 自立活動グループ

学部ごとに自立活動6区分による実態把握を行ったうえで、教材テーマに沿った教材案を出し合い検討した。学部の枠を超えたグルーピングにより多角的な視点から複数のアプローチを出し合うことができた。

3 講演会及び関連事業

(1) 講演会

演題：「異彩を、放て。」

講師：株式会社ヘラルボニー

代表取締役 副社長 松田文登 氏

期日：令和5年8月2日(水)

参加者：107名

(2) 関連事業

テーマ：「であい授業」

講師：るんびにい美術館 小林覚 氏

(本校卒業生)

アートディレクター 板垣崇志 氏

期日：令和5年6月30日(金)

参加者：中学部生徒10名

4 研修会

○全校研修会(5月26日)

「授業づくりで大切にしたいこと」

講師：校長 外館悌

5 他の教育研究機関との連携

○北海道・東北地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会山形大会 心身症・発達障害分科会 レポート発表

「心理的な不安による活動への影響が見られる生徒に対する、生徒自身による不安への対処についての取り組みについて」

発表者：教諭 玉山幸平

○全国病弱虚弱教育連盟脳性まひ部会実践事例集 自立活動グループの実践レポート提出